

[セセリチョウ科]

アオバセセリ	1	7.	VIII.	1992	三熊山ウバメガシ園
ホソバセセリ	1	13.	VII.	1991	洲本 宇山
キマダラセセリ	1	10.	IX.	1992	洲本 宇山
コチャバネセセリ	1	3.	V.	1992	洲本 宇山
イチモンジセセリ	1	6.	VI.	1992	洲本 宇山
	1	7.	VIII.	1992	洲本 厚浜
チャバネセセリ	1	17.	X.	1992	洲本 宇山
	1	14.	XI.	1992	洲本 厚浜

(こうけつ ひさし)

淡路島のオサムシ類

大草伸治¹⁾

従来淡路島からは、オサムシ類はエゾカタピロオサムシ *Campalita chinensis* (Kirby), ヤコンオサムシ *Carabus yaconius yaconius* Bates, オオオサムシ *C. insulicola insulicola* Chaudoir, ヒメオサムシ *C. japonicus japonicus* Motschulsky の4種とマイマイカブリ *Damaster blaptoides blaptoides* Kollar が知られていました。筆者は1991年、92年に続き本年もクロカタピロオサムシを採集することができ、また1993年にはアキタクロナガオサムシを採集できたのでここに報告します。なお標本は自然環境研究所²⁾に保管しています。

1) クロカタピロオサムシ *Calosoma marimowitzi* (Morawitz)

津名郡淡路町茶間川	1♂	1991. 7. 23	S. Ohkusa leg.
	1♂1♀	1992. 5. 12	S. Ohkusa leg.
	2♀	1993. 5. 12	S. Ohkusa leg.
津名郡北淡町生田大坪	1♂1♀	1993. 5. 16	S. Ohkusa leg.

なお高橋寿郎氏によれば、本種は兵庫県下でも採集例が少ない希少種であるとのこと。以下に高橋氏より御教示いただいたデータを記録します。

相生市三濃山	1♂	1974. 5. 18	H. Takahashi leg.
佐用郡佐用町大撫山	1♀	1976. 3. 13	H. Takahashi leg.
神戸市兵庫区烏原	1♂	1980. 5. 12	H. Takahashi leg.

また、能勢の甲虫⁵⁾にも川辺郡猪名川町三草山、木間生、横地、笹部での採集例が記録され、日浦勇¹⁾には養父郡関宮町鉢伏高原から記録されています。

以上、県下からの記録は今回も含めて8ヶ所になりました。本種を含めたカタピロオサムシ類は他のオサムシ類と異なり樹上性の甲虫です。したがって、ベイト・トラップなどには入りにくく、エゾカタピロオサムシの採集例⁴⁾にもあるように夜間灯火に飛来したり、初夏の頃に大量のシャクガ類の幼虫などが発生したときなどに地上で目につきやすくなるようです。今回の淡路町の例では短時間に十数個体が見られ、簡単に採集することができ

¹⁾ 千495 愛知県尾西市明地字丸川 41-10

²⁾ 千656 21 兵庫県津名郡津名町大町畑 235

ましたが、6月に入ると地上ではまったく見られなくなりました。産地では時期さえ間違えなければ採集は難しいものではないと思います。

2) アキタクロナガオサムシ *Apotomopterus porrecticollis* (Bates)

津名郡北淡町常隆寺山 1♀ 1993. 5. 13 S. Ohkusa leg.

前記能勢の甲虫には、オサムシ類ではオサホりに最も良くみられると記され、川西市黒川、横地、笹部、東畔野、猪名川町杉生新田、内馬場、上阿古谷の7地区が記録されています。クロカタビロオサムシの調査中に偶然見つけたもので、周辺を探して見ましたが、ほかには見られませんでした。

3) ヒメオサムシ *C. japonicus* Motschulsky

洲本市先山 1♂1♀ 1976. 12. 17 M. Kaneda leg.

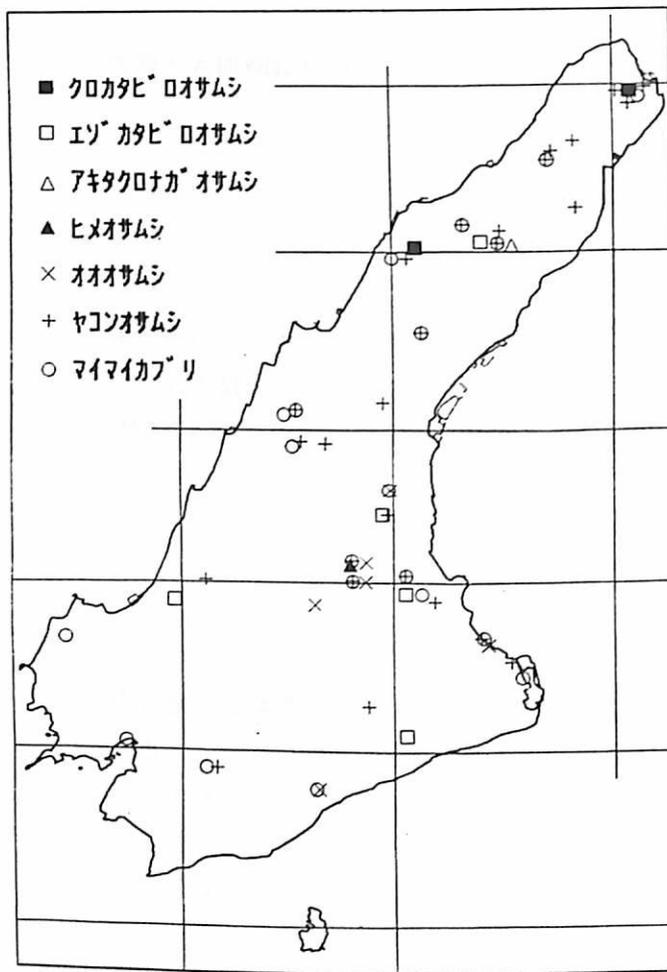
本種は現在のところ、筆者は採集していませんが、自然環境研究所の標本に未発表のものがあるので記録しておきます。従来淡路島の産地としては洲本市先山が知られているのみです。しかしながら記録としてはヒメオサムシ *C. j. japonicus* とアキオサムシ *C. j. chugokuensis* の二つの亜種が記録されています。高橋氏の報文³でもこのどちらの亜種であるかは特定されていません。局地的な分布の理由と共に本種の研究が必要であると思われま

す。クロカタビロオサムシは周辺地域を注意して捜してみた結果、淡路町茶間川のほかに北淡町でも新産地が発見された。注意深く探せばまだ新しい産地が見つかるものと思われ、また現在の所調査を行っていない南部地域にも分布する可能性も考えられる。ヒメオサムシが先山のどの範囲で採集されているか確認はしていないが、一度調査してみたい。

以下に附した淡路島産のオサムシ類7種の分布図を見ると、クロカタビロオサムシやアキタクロナガオサムシなどの新しい種が島の北部地域より見いだされていることから考えて、北部地域での採集が南部地域に比べて遅れているように見え、オオオサムシが南部地域に片寄っているのもその可能性が大きい。また西淡町周辺の空白部も目につく。

オサムシ類は各地で良く調査されている甲虫ですが、意外に淡路島での研究は進んでいないようである。普通種といわれるものを含め、淡路島の分布図を早く完成させたいと思います。

末筆ながら種々御教示いただいた登日邦明氏、貴重なデータを提供された高橋寿郎氏に厚く御礼申し上げます。



淡路のオサムシ類の分布図



アキタクロナガオサムシ (左) と

クロカタビロオサムシ (右)

参考文献

- [1] 日浦 勇 1971 近畿地方におけるオサムシの地理的分布 (予報) 大阪自然科学博物館報告 (25)
- [2] 堀田 久 1976 先山の昆虫相 (I) PARNASSIUS (16)
- [3] 高橋寿郎 1979 淡路島のヒメオサムシ PARNASSIUS (20)
- [4] 登日邦明 1979 エゾカタビロオサムシの採集例 PARNASSIUS (21)
- [5] 仲田元亮 1982 能勢の昆虫 甲虫の部 (上)

(おおくさ しんじ)